

知道 CHIDO-KAIHO 会報

64

編集 知道会広報委員会
〒310-0011 水戸市三の丸 3-10-1
茨城県立水戸第一高等学校内
発行人 西野虎之介
発行日 平成16年5月15日
通巻 第64号

目次	企 画	白球が結ぶ絆・野球部（サークル今昔）	2
	会員通信	グアタパラの地から	3
	一高だより	大学入試状況ほか	4
	同窓会・支部だより	深作欣二監督を偲ぶ会ほか	6

代議員会議及び会員の集いを開催

<代議員会議>

第53期 知道会予算を決定

知道会の代議員会が、平成15年11月29日（日）午後1時から水戸京成ホテルにおいて開催され、会務の審議が行われた。知道会の議決機関であるこの代議員会議には、毎年積極的な参加がみられ、常任幹事をはじめ、学年・地域・職域代議員併せて70名の出席者があった。

会は、総務委員会の蓼沼洋一氏の司会により進行した。まず、物故者に対する黙祷が行われ、西野虎之助会長、稲葉節生学校長があいさつを述べた。次に、西野会長を議長として議事に入った。

議事では、前期の事業・決算についての報告及び第53期（平成15年10月～平成16年9月）の事業計画と予算が山形晴一幹事長と長谷川國雄委員長から発表され、審議の結果満場一致にて承認された。

なお、予算・決算の概要は別表のとおりとなっている。

<会員の集い>

第1部 記念講演会

講演会は、リリー文化学園理事長である大久保博之さん（47卒）を講師に迎え、「幼稚園が小学校を造る理由」と題して1時間にわたり行われた。

私立小学校の設立は本県では50年ぶりであり、現在の幼児教育に一石を投げ

るものとして期待が大きい。

今後の益々の発展を祈念することとしたい。

第2部 懇親会

懇親会はピアノ演奏に迎えられ、華やかなムードの中開演した。星野幸子さん（57卒）の司会で、西野会長、稲葉校長から御挨拶をいただいた後、鏡開きが行われた。乾杯と同時にトランペットのファンファーレが鳴り響いて雰囲気盛り上げ、引き続きトランペットによるコンサートに入った。水戸市出身のトランペット奏者斑目加奈さんによる約20分間のミニコンサートで、参加者皆がしばし生演奏に聴き入った。

続いてお楽しみ抽選会が行われた。57年卒業生で代わる代わる抽選を行い、60名の方々が地元茨城の名産品（納豆、殿中、ドラ焼き、木内酒造のネストビール等）を持ち帰ることとなった。

最後は、元応援団の鈴木和彦さん（57卒）のエールで校歌を斉唱し、中締めとなった。

会場は満員で、音楽と熱気で賑やかな懇親会となった。



財務委員会による予算説明

会計報告

第52期 H14.10.1～H15.9.30
第53期 H15.10.1～H16.9.30 (単位：円)

	項 目	第52期決算額	第53期予算額
収入の部	収入合計	13,007,483	13,424,275
	年会費	10,740,000	12,000,000
	利息	32	30
	入会金会計繰入金	1,500,000	1,000,000
	前期繰越金	767,451	424,245
支出の部	支出合計	13,007,483	13,424,275
	運営費	8,654,333	8,850,000
	会員の集い費	600,514	750,000
	会議費	230,540	200,000
	事務局運営費	2,691,541	2,700,000
	通信費	3,462,394	3,500,000
	消耗品費	41,449	50,000
	旅費交通費	223,160	200,000
	渉外費	175,640	150,000
	支部強化費	420,000	450,000
	振替手数料	366,640	400,000
	年会費徴収費	198,520	200,000
	リース料	243,935	250,000
	事業費	3,928,905	4,170,000
	母校助成費	496,404	500,000
	総務委員会費	40,000	40,000
財務委員会費	20,000	20,000	
広報委員会費	2,852,501	3,100,000	
名簿委員会費	20,000	10,000	
親睦委員会費	500,000	500,000	
予備費	0	404,275	
次期繰越金	424,245	0	

白球が結ぶ絆・野球部



甲子園は 楽しい思い出

橋本 昔の甲子園球場は浜甲子園といわれ、埋め立て前の海まで1キロくらいの距離だった。お客は入場行進だけ見て海水浴に行ってしまう。球場は入場式だけ超満員というわけだ。私達は戦後の昭和29年に甲子園大会に出場した。県予選2連覇の後に北関東大会を勝

ち抜いての出場だった。対戦相手のくじ引きでは大会の優勝候補・中京商だけは引くなど皆に言われていたが引いてしまい、しかも開会式に続く11時から第1試合となった。満員の観衆の前でよく闘ったが敗戦。中京商は優勝した。でも面白かったなあ。

高橋 先輩が甲子園大会に出場したというのは話しに聞いていましたが、写真を見せていただくのは初めてです。

橋本 今日の一高グラウンドでの練習試合はどうだった。

高橋 練習試合の第1試合は江戸崎西高でしたが、1対2で残念ながら負けました。初回にエラーが出たのが痛かったです。ランナーが出て形を作りましたが、点が入らなかった。今日、監督は自分たちに任せてくれ、サインを考えてやってみるということでした。反省になりますが、自分たちはまだまだ野球を知らないなと思います。

渡辺 打たれて点数が入った。ゲッツーがとれなかった。そこからはしのいだという感じです。監督のサインがなくとも、何かしら自分達で点を取るといえることができていないと思います。

橋本 みんな守備は上手くなっている。監督の指示が100パーセントできるはずはない。例えばバントのサインが出たら、どれだけミスを少なくやるかが勝負。この春はみんな実に良い送球をするようになった。思い切ってやれば良い。エラー、三振を少なくすること。エラーはしょうがない。みんなでフォローして後を引くことがないようにすること。基礎練習の積み重ねだ。

高橋 1日おきに2班で朝練を行っています。バッティングではマシンも使います。ティーバッティングもやっています。

平出 私達の頃は機械などなかったから、打つ、投げる、走るだけをやっていました。全員がどのポジションでも守れた。全員がバッティングピッチャーでキャッチャーだった。部員も12～13人程度だった。

橋本 鉄の野球ボールがあった。監督が鋳物で作らせたものだ。指にボールをなじませるため、部員はそれをいつも持っているようにというこ

本校は高校野球の殿堂・甲子園に3回駒を進めている。昭和4年と5年、それから四半世紀を経ての昭和29年のことだ。水中・一高は硬式野球の強豪校でもあった。その野球部のOB会である水府クラブは会員数430を数え、本校のOB会組織の中でも随一の結束力を誇る。

今回は、昭和29年甲子園大会出場チームのピッチャーでキャプテンの橋本政雄さん、その後輩で水府クラブの幹事長・平出凱夫さんが、現役野球部員の高橋義人君、渡辺幸也君と語りあった。橋本さんと平出さんは共にプロの野球選手として西鉄ライオンズで活躍された。

とだった。だから通学途中であろうと授業中であろうと握っていた。あるとき授業中に机の下で握っていたら落としてしまい、ごろごろと転げるものだから先生にひどく怒られた。用具がなかったので、ひびの入った木のバットの芯を抜いて鉛を入れ、重くしたマスコットバットで素振りをした。今のトレーニングはプロ並みになっている。まっ平らなグラブ、短いバットなど用具も隔世の感がある。監督の指導もあいまって用具や機器の使い方、プログラムも素晴らしい。部員もたくさんいる。

高橋 今は部員が34人います。でも数ではサッカー部のほうが多いです。

粘りが身上の現役チーム

平出 今の時期だと、紅白試合や他校との練習試合が毎週のように組まれ、3月、4月で10日も予定されている。実戦で強くなってもらいたい。

橋本 授業時間中に監督に呼び出されて、外部コーチの指導を受けたこともあった。当時の校長は高野連の会長、野球部の部長が理事長だったろうか。学校として野球に相当力を入れていた。今の野球部員たちには感心する。

私は部員の親御さんに、1年間の浪人は覚悟してもらいたいと申し上げている。部員たちであるが、しばし自分の好きなことに集中して後、きちんと自分のめざす学校に入っていく。大したものだ。勉強に関しても野球で培った集中力が生きていると思っている。君たちは野球の魅力をどんなところに感じるの。

高橋 自分は大洗出身で、野球は軟式の少年野球から入りました。野球の魅力は、チームで流れに乗った時の全てがうまくいく感覚でしょうか。チームで勝てるということは特別です。

渡辺 相手チームと一人一人の力の差があっても、勝敗は分かりません。チームの力で勝つことができる。そこにやる意味があると思います。

橋本 スポーツの中でも、野球は番狂わせが多いかもしれない。一高のように守りが強ければなお意外性が出やすいな。

高橋 今の水戸一高は、粘り強さが身上のチ



高橋 義人さん

平成16年4月18日
知道会館にて
写真左から
橋本政雄さん（昭30卒、甲子園
出場チームのキャプテン）
平出凱夫さん（昭33卒、野球
部OB会水府クラブ 幹事長）
高橋義人さん（現役3年生、キャ
プテン）
渡辺幸也さん（現役3年生、副
キャプテン）



橋本 政雄さん

グアタパラの地から

1963年12月2日、横浜港よりさくら丸に乗船し40日の船旅を経てブラジルに移住しましてから早40年が経過しました。

私が住んでおります移住地は、移民発祥の地といわれ1908年に第1回笠戸丸移民が配耕されたグアタパラ耕地で、いわば移民の「ふるさと」的な所でもあります。

全国拓殖農協連（現 JATAK）の呼びかけに、山形、茨城、長野、岡山、島根、山口、佐賀の7県が協力して移住者を送り出し、現在は120戸でグアタパラ移住地を構成しております。

夢も希望も大きく持って来ましたが、現実には果てしなく泣き笑いの人生の始まりでもありました。あれをやってもこれをやっても失敗の連続でしたが、やる気だけは持ち続けました。ただし、酒を飲みながらでしたが。

そんなある日、新聞を読んでいると茨城県より高校教師調査団が来伯するとの記事があり、その一員として同級生だった櫻井義夫君の名前を見つけました。

空港で再会しサンパウロでの歓迎会、グアタパラ移住地での歓迎会で肩を組み南十字星を見上げ校歌を斉唱した感激は、今でも忘れられない思い出となっております。

この度、在伯茨城県人会の関連で知るところとなった知道会報編集委員の方から投稿のお誘いをいただきました。

心から感謝申し上げます。

（川上 淳 昭27卒）



※ 川上氏連絡先
在ブラジル茨城県人会
Rua Bueno de Andorade,
756-Aclimacao
SAO PAULO-SP-BRASIL

久しぶりの帰国、知事表敬訪問
(10月21日)

集まり具合が違う。

平出 私は、野球部OB会である水府クラブを通じて、現役の支援をさせてもらっている。このところ年間50万円の水準で支援できており、うれしいことだ。このようなOB会は他校になかなか見られないものだ。正月2日には毎年恒例の豚汁会を行っているが、これは本校出身の大学野球の父・飛田徳洲先生の命名したものだ。現役とOBが試合をして後、豚汁を食べながらの総会となり、卒業生には先生の言葉「一球入魂」を入れた絵皿を贈っている。

橋本 今年は2回勝ってみろ。楽しいぞ。県大会を勝ち抜いていくとOBがどんどん集まってくる。現役を支援しようという気持ちが高まり、寄付金の集まり具合も違ってくる。

高橋・渡辺 がんばります。これからもよろしくお願ひします。



渡辺 幸也さん



甲子園での入場
行進(昭和29年)

第36回全国高等学校野球選手権大会

ームです。今年は冬の取り組みもあり、精神力もついてきたと思います。監督を信じて全員がついていっており良い状態です。

渡辺 自立というところではまだ足りないところがあると思います。粘りで結果を出していきたいと思いません。

橋本 この間の那珂湊球場での練習試合のように、4対3で競りあって勝てたというのはすばらしいことだ。今日も負けたとはいえ2対1で最後まで粘った試合だ。次の試合に生きてくる敗戦だと思う。



平出 凱夫さん

平出 私達の頃はテニスやサッカーなどはなじみもなく、スポーツといえば野球くらいだった。

橋本 大下や川上が出てきてホームランをどんどん打って、大変な人気になった。私は大下のチームメイトで、バッティングピッチャーを務めた。大リーガーには黒人選手のジャッキー・ロビンソンが出てきた。

平出 彼が活躍するようになって、黒人が大リーグに進出していった。高橋君は大洗出身だね。タイガースの井川選手とは近いのかな。

高橋 小学校の野球少年団の先輩です。

橋本 元ジャイアンツの長久保君も大洗だ。少年野球が盛んな地域なんだね。私は平成8年に定年を迎えたのだが、その年だったか、県大会で一高がコールド負けしたのを見て以来、カッコしてしょうがなかった。元プロ野球選手でも母校を指導できるような制度ができたので、手続きをして指導させてもらった。高校野球で水戸一高は安全パイというような言われ方をしていたが今は違う。守りが良くなり、バントがうまくなった。ファーストが突っ込んでくるのに、一塁線上にバントするようなことはなくなった。高橋 守りばかりでなくピッチャーも良くなりました。今日の木村君はフォアボールを2つくらいしか出していません。

橋本 守りについては、各回の先頭打者は簡単に出すなとよく言われる。それとは裏腹になるが、攻撃する側だと、まず先頭打者が出塁することが大事だ。3月末の大洗球場での黒沢尻北高との練習試合を見たが、バントがうまくなったなあ。他校では野球専用グラウンドを持っているところがあり、中にはスタンド付きのものもある。少し離れたところでもよいから専用球場があればと思う。夏の大会だが、2つは勝ってもらいたい。2つ3つと勝てば野球部OBの

EVENTS

- 10月
 10日 総務委員会
 15日 知道会会計監査実施
 18日 常任幹事会
 日立知道会
 25日 昭和34年卒業同窓会
- 11月
 3日 昭和28年卒業
 50周年記念同窓会
 7日 昭和18年卒業同窓会
 昭和26年卒業同窓会
 8日 茨城秋高会総会
 9日 東京・水戸知道会
 交流会
 13日 財務委員会
 22日 岩瀬町知道会
 昭和38年卒業同窓会
 29日 知道会代議員会及び
 会員の集い
 昭和57年卒業同窓会
- 12月
 6日 西日本水一中高会
 7日 水戸みつば知道会
 忘年会
 11日 名簿委員会
- 1月
 2日 昭和39年卒業同窓会
 17日 知道会会員の集い
 実行委員会反省会
 30日 親睦委員会
- 2月
 7日 正副会長・
 正副委員長会議
 11日 水戸みつば知道会
 新年の集い
 21日 水戸下市知道会
 28日 東京知道会同窓の集い
- 3月
 1日 水戸一高卒業式
 4日 昭和34年卒業同窓会
 10日 平成16年第1回
 会員の集い実行委員会
 20日 那珂町知道会設立総会
 21日 茨城町知道会
 26日 広報委員会
 27日 水戸一高吹奏楽部
 定期演奏会
- 4月
 3日 水戸桜山知道会
 7日 水戸一高入学式
 18日 水戸みつば知道会総会
 25日 昭和29年
 卒業50周年同窓会

一高だより

大学入試状況

毎年春になると、医師や薬剤師の国家試験合格者の氏名が新聞に載る。何年か前に水戸一高を巣立っていった名前をその中に見つけ、その成長ぶりを思うとやはり嬉しい。同じ時期、大勢の卒業生が大学や大学院での勉強を終え、それぞれ社会へと巣立って行く。各界で活躍されている先輩諸氏には、彼らを厳しく鍛え、そして温かく見守ってくださるようお願いするばかりである。

今年もまた328人が水戸一高を卒業していった。この学年から8クラスとなり、卒業生の数も40名あまり少なくなった。2年後の新課程入試を目前にして、あまり後がない状況の中、東北大学や千葉大学で合格者の数を増やした。また、私大入試でも健闘し、早大、東京理科大などで大幅増となった。一方、出願先を絞り込んでいた理系や最難関校では厳しい結果となった。

最終的には国公立大学合格者が昨年とほぼ同数の115名、私大は延べ293名（いずれも現役のみの数字）で、実合格率も63.9%と4年ぶりに60%を越えた。

主な大学の合格者数を以下に記した。（ ）内は現役合格者数、昨年度との増減は△▼で示した。

● 国公立大学

北海道大学	9 (4)	△ 1
東北大学	33(18)	△ 10
茨城大学	11 (8)	△ 5
筑波大学	23(16)	▼ 9
千葉大学	16 (8)	△ 8
お茶の水大学	2 (2)	0
東京大学	11 (5)	▼ 7
東京外語大学	4 (4)	△ 1
東京学芸大学	4 (3)	△ 1
東京工業大学	7 (3)	▼ 4
一橋大学	8 (6)	▼ 1
横浜国立大学	5 (4)	▼ 1
京都大学	8 (3)	△ 4
東京都立大学	7 (5)	▼ 2

● 私立大学

青山学院大学	21(14)	▼ 4
慶応義塾大学	47(18)	△ 9
上智大学	16 (6)	△ 1
中央大学	43(17)	▼ 9
東京理科大学	81(26)	△ 23
法政大学	21(13)	△ 1
明治大学	72(37)	△ 24
立教大学	28(17)	△ 2
早稲田大学	99(50)	△ 27
立命館大学	22 (9)	△ 6

平成15年度知道会褒賞



活躍の思い出を胸に

平成15年度の知道会褒賞は、3月1日の卒業式当日、西野虎之助知道会会長より授与が行われた。受賞した生徒は次のとおり。

(31組)

大山和生、木原貴俊、斉藤圭佑、高橋祐介、藤枝勇也、前島崇宏

(32組)

樫村透、中根智寿、三村祐介

(33組)

勝山裕介、郡司圭、濱小路翔

(34組)

島田尚輝、中村恵、吉田勝

(35組)

海野千秋、海老澤美幸、大山里美、岡沼杏子、坂本和也、山田真大

(36組)

阿久津理絵、佐藤悠人、寺門瞳

(37組)

菊池直樹、栗原祥一、野内敬之

(38組)

溝口琢朗

一高だより

平成16年度定期人事異動

次の方々が異動された（カッコ内は教科及び本校在籍年数。）。
1 転出

橋本さと子（国語，14年，石岡第一高校）

木戸明良（理科，10年，那珂湊第二高校）

中庭昌樹（国語，12年，大洗高校）

額賀俊光（数学，8年，日立第一高校）

畠山弘恵（実習講師，17年，太田第二高校）

2 転入

森主計（保体，太田第二高校）

萩原崇人（国語，石岡第一高校）

大島勇一（国語，太田第一高校）

丹和夫（理科，水海道第二高校）

柴崎孝浩（数学，八郷高校）

3 採用

佐々木悦子（実習助手）

奈良惇（非常勤講師，社会）

4 退職

石川禎紀（国語，1年）

花積秀樹（保体，1年）

石田裕人（非常勤講師，社会，1年）

長崎インターハイに出場

<弓道部>

私達弓道部は、日頃の練習が実を結び、昨年の夏に長崎県大瀬戸町で開催された長崎ゆめ総体へ茨城県男子団体の代表として出場権を勝ち取ることができました。全国各地津々浦々の代表選手が集まった現地での練習は、凄まじさを感じ取らずにはいられませんでした。結果は、予選を通過し決勝トーナメントにまで駒を進めましたが、一回戦で対する大分・竹田高校に2本の差をつけられ涙を飲むものとなりました。しかし、今回の大会では「団体戦」というものの素晴らしさを知ることができました。弓道という武道は基本的には個人競技です。だけれど、インターハイの団体戦という種目において一人で20射皆中を出すことはできま



インターハイ会場前にて

せん。選手5人の心技がすべて一つになったとき初めて20射皆中を出すことができるのだと思います。今回の大会で、結果としては良い成績を出すことはできませんでした。仲間との繋がりにより強いものとなりました。この先、関東大会やインターハイなどの大きな大会が待ち構えています。今までに培ってきたものすべてを一つ一つの大会にぶつけて、悔いの残らない引退を迎えたいと思います。これからも益々練習に励んでいきますので、応援の程よろしくお願いたします。

NHK全国高校放送コンテストに出場

<放送委員会>

放送委員会は去年の夏にNHK杯全国高校放送コンテストのラジオドラマ部門に出場しました。

私達は、毎年このラジオドラマの収録のために1泊3日の合宿をします。なぜ収録のために合宿をするのかというと、良い環境で録音をするために、音楽室で、周囲の雑音の少ない深夜に作業を行うからです。音質に対するこだわりは強く、マイクのノイズや、かすかに聞こえる車の走行音などが入らないように細心の注意を払います。また、演技についても妥協を許しません。キャストに選ばれた人は2か月くらい前から発声練習を始め、収録の時も納得がいくまで何度も何度もやり直しま

す。そのため作品自体は7分程度なのですが、収録には2晩かかってしまいます。

完成に至るまでには、畠山先生をはじめとする諸先生方に本当にお世話になりました。たった7分間の作品ですが、その中から得られたものは多く、特に一緒に制作した仲間達の存在は、何事にもかえられないものだと思います。そしてまた今年も一緒にいい作品を作るためにがんばっていきましょうと思います。



ほんとに真夜中にやってます

各棋戦で活躍

<棋道部女子>

私達水戸一高棋道部女子が出場した大会と、その結果を紹介します。

5月 茨城県高文連春期将棋大会
女子団体戦1位

6月 全国高校囲碁選手権茨城県大会
女子団体戦1位、個人戦1位萩谷，2位秋山

7月 全国高校囲碁選手権大会
女子団体戦2回戦敗退

8月 全国高校総合福井大会
囲碁部門団体戦 2勝4敗

11月 茨城県高等学校周期囲碁大会
女子団体戦2位，女子個人戦1位萩谷，2位萩野谷，3位秋山

茨城県高文連秋期将棋大会
女子個人戦2位萩野谷，3位秋山

1月 関東地区高等学校囲碁選手権大会（宇都宮市）
女子個人戦2位萩谷

深作欣二監督を偲ぶ会

去る1月15日(木)6時より、東京赤坂プリンスホテルにおいて深作欣二監督を偲ぶ会が盛大に開催された。

まず驚いたのは入り口付近の生花の量(勿論にさし会の生花を含む)、受付の混雑、長蛇の列であった。会場に入ると多勢の報道陣がカメラを構えて有名人の来場を虎視眈々とねらっており、又会場の一部には数多くの監督作品のスチール写真が所狭しと展示してあった。そしてセレモニーが始まり、発起人代表の東映株式会社社長 岡田茂氏より、この度は深作監督の一年忌にも拘わらず多数の弔問客に800人も来ていただき感謝の念で一杯である、これも故人の人徳の表れであろうとの謝辞があった。次に日本映画監督協会理事長(故人の後任)山田洋次監督のしみじみとした挨拶があり、会食に入った。

私共にさし会(昭和23年、24年卒の同窓会)会員は、知道会会長の西野虎之介さんを始めとして全部で22名。夫人同伴も数名、そして故人と親交のあった水戸知道会会長の田中功さんもお嬢さんと出席しておられ、その他顔なじみの方々もたくさんおられた。そして、そこに故人と共に数回来水され、共にゴルフを楽しみ酒を飲んだ俳優の千葉真一氏、テレビでよく見かける崔洋一監督(監督協会専務理事でご両親が水戸出身とのこと)も加わり懐旧談に時の経つのも忘れた次第である。

最後には謝辞として夫人の中原早苗さん、ご長男の深作健太さんの挨拶があり、中で特に、本日は亡き父の友人達が水戸から多勢来ていただいて、本人も大変喜んでおることと思います、本当にありがとうございました、との言葉をいただいて私共も満足して帰水の途に着きました。

茨城町知道会総会

平成16年3月21日(日)午後2時より茨城町役場前の芝菴において茨城町知道会総会が開催されました。案内通知者は平成元年卒業までの165名で、うち欠席回答者58名、無回答者90名、戻り1名でした。毎度のことながら若い方の出席が少なかった。

総会は司会者の開会のことばで幕を開け、まずは会員物故者に対して黙祷し、引き続いて市毛会長さん(昭23卒)の挨拶があり、例によって事務局より総会開催までの経過報告がありました。また当日は知道会事務局長大川さんのご臨席を賜り本部親睦委員会の事業計画などにつ

いてお話を伺うことができました。恒例により会長を議長として議事が進められましたが、今回は初めての参加の方も何人かおられたため、議事に入る前に自己紹介を兼ねた近況報告が行われました。議事の方は地域代議員の交替などを議決し、懇親会に入りました。

海老沢稔之助(昭11卒)大先輩の音頭で乾杯し、懐かしい面々との懇談に入りいつの間にやらカラオケなども飛び出し、会は最高に盛り上がりました。やがて中締めということになり、全員が声高らかに校歌、第二校歌を合唱、母校にエールを贈り、今後の活躍とお互いの健康を祈りつつ次回再会を約し午後5時ごろ散会しました。

(皆川記)

29 同窓会

母校を巣立って半世紀を迎えた昭和29年卒業生の50周年記念同窓会が4月25日(日)、水戸大工町の割烹魚政で開かれた。全卒業生404人のうち物故者などを除く328人に案内状を郵送。「全クラス合同の同窓会は今回をもって終結したい」という文面のせいもあってか、5年前の同窓会を上回る100人が大広間を埋めた。

第1部の記念講演会は大久保利弘君(3組)の司会で始まり、全獨協医科大学学長の大森健一君(1組)が「すこやかな老い」という演題で講演。

第2部は40数人の物故者に対する黙祷の後、代表幹事の宮田義雄君(4組)が挨拶。記念事業として「知道会在校生土気高揚資金」金一封が宮田君から知道会副会長の田中功君(8組)に渡された。

懇親会は山形君の乾杯の音頭で開始、50年ぶりの再会という人もいて最初は戸惑いも見受けられたが、杯を重ねるうちに「オマエとオレ」の関係が復活。青春時代の思い出や近況報告、それぞれの老いの話などで盛り上がり、名残の尽きない面々はグループを組んで夜の街へ繰り出していった。



29 同窓会の一コマ

翌26日は記念の29会ゴルフ大会が水戸市加倉井町の水戸ゴルフクラブで開かれ、8組30人が参加。二日酔いや飛距離の低下を嘆きながらも和気あいあいのプレーを楽しんだ。

さんし会(昭34卒)同窓会

去る10月25日(土)午後4時から東京明治記念館(信濃町)にて開催されました。

さんし会は昭和55年(1980年)に創立して今日に至っており、年1回の同窓会を継続して23回になります。当初水戸での開催でしたが、この10年間東京と水戸で交替で行っております。恩師も必ず御出席いただき旧交を温め、昔話に花が咲き時を忘れるひとときです。今回は30名の会員と箕輪先生が御参加くださりまして、盛会に開催されました。

この席で、34会なので次回から毎年3月4日に場所も水戸で開催しようと全員一致で決まりました。

那珂知道会設立

かねてより準備を進めていた設立総会が、去る3月20日「センチユリープラザ那珂」において開催された。

西野会長、稲葉校長、寺門瓜連知道会長、大川事務局長ほかの来賓を迎え、90名の参加の下、川崎正之総合司会(30年卒)の進行により開会した。飯塚一発起人代表(26卒)の経過報告の後、寺門隆議長(22卒)の議事運営により規約、事業計画及び予算案、役員人事案が満場一致をもって可決され、正式な設立となった。会長には小澤廣仲氏(16卒)、副会長には勝山丈夫氏(18卒)、飯塚一氏を選出した。

総会后、茨城大学教授鈴木暎一氏(32卒)による水戸学に関する記念講演を拝聴し、水戸学の本旨について理解を深めた。

その後祝賀会が開催され、大和田泉氏(12卒)の乾杯により出席者全員が旧交を温めあった。

最後に、鈴木保男氏(16卒)の万歳三唱、校歌斉唱の運びであったが、設備故障のハプニングにより川崎氏のナマオケによる校歌斉唱で締めくくることがとなり、学生時の応援団指揮下での練習を思い起こし会場は最高に盛り上がった。参加者全員次回の再会を期してのすばらしいものであった。

(高野・勝山報)

「現役に負けず歩く会」

に参加して

高瀬一郎先輩（昭31年卒）の先の本紙の流暢な記事で本会の紹介があり、現役の頃を思い出してなつかしく興味深く読ませていただいた。機会があれば参加してみたいと思っていたが、たまたま31年卒の塚田延充、門井薫両先輩と7月に尾瀬を散策したこともありお二人のご縁で急なことではあったが参加することができた。折角の機会でもあり小崎忠先輩（昭23卒）、益子隆氏（昭34卒）、村井田二男氏（昭34卒）に声をかけたところ快諾の返事をいただき合流する。

私は卒業して早くも45年になるが、在学中は父の転勤もあり高校2年より1年半ほど菅谷から通学したこともあった。水戸駅より水郡線に乗るのは何年ぶりだろうか。

矢祭山駅に到着し、参加者18名の自己紹介。31年卒が13名。前校長の池田先生、そして初参加の私たち4名である。



スタート時点では元気でした

当会の先駆者でもあり企画者の枝弘道先輩（昭和31年）から歩行の諸注意事項があり、軽い準備体操、記念撮影を終えていよいよ午前9時40分より水戸を目指して出発する時間となった。記念撮影等はもっぱら大宮町在住の小室先輩（昭31卒）が引き受けてくれた。折しも天候は秋晴れ絶好の日和となり、空気もさわやかである。好天に恵まれたことを喜びながら、一行はつかず離れずそれぞれ各人のペースで歩き始めたが、先頭は小崎（昭23卒）先輩である。しっかりと足取りは普段から大塚池周辺を散策し足腰を鍛えていることが窺える。矢祭山からの歩行は車の通りの少ない旧道を進むこともでき、素晴らしい奥久慈の山々、そして清流の久慈川をじっくりと堪能できる。道の両脇にはコスモスの花も咲き誇り、リンゴも赤みを増していた。私たちの現役の頃はリンゴ畑はあったのだろうか。

私は水戸ウォーキングクラブ（会長 川上清氏、昭29卒、会員140名）に所属して現在は水戸の偕楽園・千波湖等を中心にウォークもしているが、奥久慈の澄んだ山々と美しい久慈川の風景は格別のものである。「四国の四万十川の清流は世に喧伝されているが、久慈川はもっときれいなのではないか。」塚田先輩はいうが、むべなるかなと思う。

水戸一高の校門までは全行程70km強の長丁場であるが、このコースには大子の「道の駅」でのおいしい地元産ソバがあり、山方宿では根本酒造（根本嘉朗氏、昭31卒）での銘酒と奥様手作りのトン汁も待っていてくれる。旅情に溢れ往時を偲ぶにはもってこいではなかろうか。

歩行コースには水郡線が交錯しており、体調が今ひとつの場合にはいつでもリタイアできるようなので歩いていても安心である。初参加の私たちは残念ながら今回は早々とリタイアしたが、来年以降はもっと長く歩き、多くの方々に声を掛けて参加していきたいと思っている。

31年卒の先輩方のうち7名は、迫り来る体の疲労を振り払い気力を振り絞って翌日10月5日の正午頃ついに70km強を走破して水戸一高の本城橋に到着し感涙にむせんだことを後で聞きました。先輩達の「若さ」に感嘆するばかりです。

なお、次回以降の継続も予定しているのは是非とも参加を連絡して欲しいとのこと。

（連絡先）枝弘道

水戸市元吉田町 1655-3
TEL:029-247-4633

33年卒同窓会のお知らせ

前回、還暦同窓会を開催してから5年が経ちました。次回同窓会は、学年幹事会で今年11月20日（土）と決まりました。お互いに声を掛け合っただけ多くの人で集まりたいものです。詳細につきましては10月初旬に全員に案内する予定です。楽しみにしてください。

また、同好者による毎年恒例のゴルフコンペ大会を、9月16日（木）に開催いたします。初参加の希望者は申し出てください。

以上についての問い合わせ、連絡先は次のとおりです。

倉田信一（株）アーバン
（TEL）090-3319-4625
（FAX）029-227-7191
大内紀典（柳建設（株））
（TEL）090-8514-3928
（FAX）092-243-7001
小堀章雄（常銀旧友会）
（TEL）029-225-0470
（FAX）029-225-0485

親睦委員会行事のおしらせ

第24回ゴルフ大会

大会史上初めての日曜日開催が実現しました。休日にしかプレーしないとのポリシーをお持ちの方々、大変お待たせいたしました。年齢を問わず楽しく語らいながらのプレーがモットーのゴルフ大会です。皆様方のご参加をお待ちしております。

期日 平成16年6月6日（日）
会場 笠間東洋ゴルフ倶楽部
競技規定 18ホールストロークプレー 新ペリア方式
参加費 5,000円
プレー費 17,700円（昼食代、キャディーフィー、カート代含む）

第1回水戸の美再発見

ミニ歩く会

千波湖一周と水戸の水道の歴史、笠原水道に向けて逆川緑地を気分よく歩きましょう。四季平からの偕楽園・千波湖の眺望は、水戸の美しさを再発見させてくれることでしょう。完歩賞として水戸一高ピンバッジを用意しています。到着地にて豚汁のもてなしをいたします。

（期日）平成16年7月4日（日）
（コース）出発地一千波湖北側一逆川緑地一笠原水道一千波湖南側一四季平一出発地
（行程）約8キロ（所要約5時間）
（参加費）1,000円（大人のみ）

第10回親睦旅行

「日本の歴史と文化を訪ねる旅」

第10回は木曽路です。

島崎藤村の「夜明け前」の舞台となった馬籠宿、江戸時代の面影を残す妻籠宿を訪ねます。飯田の伝統工芸「水引き」の実演見学体験、ご希望の方には別料金にて「天竜舟下り」をお楽しみいただけます。お泊りは南信州の出湯屋神温泉のお風呂自慢の宿を選びました。全行程トイレ付のベンツ大型車にてゆっくりとお楽しみいただけます。

期日 平成16年9月12日（日）～13日（月）
行先 木曽路
宿泊先 南信州 屋神温泉
参加費 20,000円

（申し込み先）

知道会事務局 大川まで
（月・水・金）
TEL：029-226-3960
FAX：029-226-4157

委員会

総務委員会

3月10日、中村総務委員長を中心とする「会員の集い実行委員会」が開催された。

本年の「会員の集い」は、昭和48年卒が講演会を、58年卒が懇親会を、そして平成5年卒が受付と会場案内を担当する。「集い」を3学年で担当する取り組みは一昨年からはまったもので、「集い」を幅広い年次の卒業生が多数参加する歓談の場とすることを目的としている。

当初、土曜日に会場を確保するのが困難だったため、今年は今曜日に開催するという案もあったが、「多くの会員に参加していただくためぜひとも土曜の開催を」という強い要望があり、八方手を尽くした結果、常陽芸文センターを会場として確保することができた。本年の会員の集いは、下記の日程で開催される。

日時 平成16年11月6日(土) 午後2時

財務委員会

知道会会長から知道会財務委員の委嘱を頂き数年となる。長谷川國男委員長、荒川哲也副委員長のもと、大変まとまりの良い財務委員会である。活動の大きな目標は会員拡充である。2万人を超える卒業生のうち、6千人の会員確保を目標とするも、残念ながらそれに達していない。

ところで、毎年秋には知道会の集いが行われている。これは卒業生が誰でも参加することのできる行事であるが、若い年代の方々は容易に入り込めない雰囲気であったため、2年前から学年幹事主体に変更して開催している。これが功を奏し、若い会員の参加が増えたのである。

これらを踏まえて私は次の提案をしたい。現在、私の知る限りでは学年の同窓会の役員と知道会の学年代議員が同一でないところが多い。学年同窓会の役員である会長、副会長が知道会の代議員を兼任すれば知道会と学年の連絡が密になり、知道会が幅広く、さらに強固になり活動も円滑になることと思う。このようなことを改善してより良い知道会になって欲しいと思っている。

<女性の参加、大歓迎>

知道会親睦委員会では、前項でご案内のように、例年のごとく知道会ゴルフ(6/6)、知道会親睦旅行(9/12・13)を実施いたします。

そのほか、今年から若い世代の方、特に女性の方々が気軽に参加できる行事として、7/4(日)に千波湖周辺を歩く「ミニ歩く会」を企画いたしました。6月の初旬にゴルフを行ってまもなくです。参加する方も準備をする方も大変ではありますが、是非多数の方々にご参加いただいで成功させたいと思います。

皆様方には既にご承知のことと思いますが、千波湖周辺は東の谷・西の谷の公園整備も終わり、美しい緑に覆われ、歩くのに大変気分の良い所になりました。家族で、同級生

親睦委員会

同士で、と形にこだわることなく参加できるよう考えました。今回は初回ということで、記念バッジも用意しました。参加申し込み用紙にご記入のうえ、FAX(029-226-4157)いただければ幸いです。

今後この行事が年1回の楽しみになりますことを願いつつ。

名簿委員会

昨年末、人事新報社というところから水戸一高同窓会名鑑発行の案内が届いたとの問い合わせが各方面からありました。学校も知道会もまったく関与しておりません。このような業者がほかにも数多くあり、今後同様の案内がある可能性があります。会員諸兄には十分ご注意くださいませうようお願いいたします。

知道会名簿は内規により5年に一度の発行となっております。今回は平成19年の予定となっております。作成の際には、調査カードの案内人が「知道会長」及び「名簿委員長」、返信の戻り先が「水戸一高」宛といたしますので、その節はご確認のうえご協力くださいますようお願いいたします。

事務局だより

〇桜の花の季節もあっという間に過ぎ去り、春本番となりました。

高知競馬場では「ナルウララ」という馬が106連敗中で一躍脚光を浴び、日本一のジョッキー武豊をもってしても勝てませんでした。なぜ日本中に人気を広まったのか?馬券を買っても当たらないことから交通安全のお守りにするとか、古くから持っている日本人気質、判官びいきか?いずれにしても、負けても負けても一生懸命に走り続ける姿に共感するところがあるのでしょうか。私たちも、一つの目標に向かって努力することを大切にしたいと思います。

新本城橋も完成し、校内整備も完了してすばらしい学校になりました。時には母校訪問お待ちしております。

編集後記

〇会報を前号からA4判横書きに一新したところですが、ある方から振込用紙の余白にいていな文字で感想をいただきました。「横書きで読みやすくなり大変結構です」とのこと。皆様方には概ね好意的な評価をいただいているようです。今後も読みやすい会報づくりに務めてまいります。

〇今回の企画記事は「サークル今昔」として、野球部OBと現役の皆さん4人に語っていただきました。本校のサークル活動は、生徒の自発的な意志により継続し、歴史が積み重ねられています。そこには、先輩からの資金的な援助や見守りなどがあり、知道会会員と在校生が交流しています。広報委員会では、そのような交流を紹介していきたいと考えておりますので、ご意見ご感想等をお寄せください。(広報委員K)